2024-2025年度版刊行に際して

パンデミックが一応収まりはしたものの，なにかに怯える感覚が残存したまま通常の生活を送っているといった感じが，いまだ日本には色濃く残っているように見えます．目に見えない脅威に長く支配されたのですから，そう簡単には元には戻れない人が多いのでしょう．さらにこのパンデミック中にはワクチンに関する関心の高まりから，とくに客観性に欠ける情報が駆け巡り，ワクチンに対する不安が大きくなり，それに伴って薬全体に対する不安感も強くなってしまったようです．

確かに安易に薬に頼りすぎている現状を否定することはできません．わが国の薬の使用状況は，海外と客観的に比較すれば多すぎると言わざるを得ません．私は多いということ自体を問題にしているのではなく，本当に必要性があって一つひとつの薬が選択されているのかということに疑念をいだくことが少なくないのです．

同じ病気に使う薬でもそれぞれが違う顔をしていて，性格も違います．それを良く理解せずに次々と薬が追加され,処方カスケードと呼ばれている処方箋が問題視されています．同時にすばらしい新薬が次々と登場してきて治療の幅も広がってきたことは良いのですが,このところ新薬の作用機序は高度な知識がないと使いきれないという傾向もあるのに,新薬に安易に手を出す文化？が日本ではいまだに存在しているようです．

今回の改訂はこのような思いをもちながら行いました．どこまでその思いを反映することができたのかは正直言って私にも良くわからないのですが，新薬を中心にできるだけわかりやすい解説に努めました．

薬のことが理解されてこそ一人ひとりの患者さんに合った処方が可能になることは言うまでもありません．

今回は次のような内容を中心に改訂を行いました．

・「緊急避妊薬」「メニエール病治療薬」の項目を新たに加えたこと
・すべての項目について添付文書更新にともなう，必要とされる情報の更新を行ったこと
・必要とされる新規医薬品の追加のほか，診断基準の追加あるいは差し替え（肺炎，糖尿病，脂質異常症など），情報の更新を行ったこと
・新規で保険適用された治療薬（肥満症治療薬など）を追加したこと
・視認性を高める紙面デザインへ刷新したこと

いつもと同じ言葉で終わるのですが，患者さんのために日々頑張っておられる多くの医療従事者の方の日々のお仕事の一助となれば幸いです．

2024年5月

中原　保裕